

「第5次小山市男女共同参画基本計画（素案）」に関するパブリック・コメントの実施結果について

「第5次小山市男女共同参画基本計画（素案）」に対するパブリック・コメントの結果について、以下のとおり公表します。

今回の意見募集にあたり、ご協力いただきました方々へ御礼申し上げますとともに、今後とも当課の事業にご理解・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

1. 意見募集の概要

- 1) 閲覧期間：令和7（2025）年12月15日（月）～令和8（2026）年1月5日（月）
- 2) 閲覧場所：①人権・男女共同参画課窓口 ②各出張所 ③小山市ホームページ
- 3) 提出方法：①郵送 ②FAX ③電子メール ④人権・男女共同参画課へ直接書面による提出
⑤インターネット回答フォーム

2. 意見募集の結果

意見提出数：3名 33件

3. 提出された意見等の概要とこれに対する市の考え方 次ページより

- 【区分】 A：計画案に反映されているもの
B：意見を踏まえ、計画案を修正するもの
C：意見として承ったもの

4. お問い合わせ先

小山市人権・男女共同参画課 男女共同参画係

Tel:0285-22-9296 Mail:d-jinken@city.oyama.tochigi.jp

No	該当項目等	ご意見等	区分	市の考え方
1	第1章 計画の策定にあたって	P1の最後の行の「ウェルビーイング」は「ウェルビーイング」のほうが良いかと思えます。	B	ご意見のとおり修正します。
2		「計画策定の趣旨」は、第4次計画の「はじめに」と同じ役割を持つものと思われま。策定責任者として、市長名での記載としていただきたいと思えます。	B	ご意見をふまえ、市長名で「はじめに」を掲載します。
3	第2章 男女共同参画を取り巻く状況	P8の15行目の「深化」は「進化」でないかと思えます。	C	ここでは、男女共同参画の取り組みが「性別に関わらず、全ての人の尊厳と選択を保障する」という、より本質的・包括的な方向へ進んでいることを表現しているため、発展・変化・進歩の「進化」ではなく、内容や理解が深まる「深化」で掲載しております。
4		P11の「4 小山市の取り組み」は、国や県の取り組みに比べて漠然とした記載となっています。小山市では2006年から5年ごとに「小山市男女共同参画基本計画」を策定、成果指標の現状値を示し、目標値を設定しています。第1次から前回の第4次までの約20年、重点的に取り組んできた施策、成果の上がった施策、未達の施策等、これまでの取り組みの総括を具体的に記載していただけたらと思えます。また、市が主体となっている記載をお願いします。	B	ご意見のとおり修正します。
5		P12 グラフ上の総人口の凡例が見つらいと思えます。他のグラフは第2軸側と上の部分も黒線が入っているので統一してはどうでしょうか。他のグラフは0%、10%と整数だけの表示で数字と一体的になっているので統一してはどうでしょうか。	B	ご意見をふまえ、見やすさを考慮して修正します。
6		◆P13 男女構成比推移の資料 誤「平成22～令和2年」→正「平成22年～令和2年」 あえて省略しているなら、修正不要です。 ◆P14 合計特殊出生率の推移 他のグラフに合わせて右側と上側も黒線を入れて統一してはどうでしょうか。 ◆P15(5)世帯の状況 コメントとグラフに西暦の表示がない。 ◆P16(1)雇用の状況 コメントとグラフに西暦の表示がない。 ◆P17 共働き世帯の推移の画像解像度が粗い。 ◆P23 4行目の西暦の表示がない、下段のグラフの数値が見えにくい。	B	ご意見をふまえ、見やすさを考慮して修正します。
7	第2章 男女共同参画を取り巻く状況(アンケート調査結果)	◆P26、28、29、31 グラフの凡例が見えにくい。 ◆P27 グラフに西暦の表示がない。	B	ご意見をふまえ、見やすさを考慮して修正します。
8		P24以降のアンケート調査の多くが全体、男、女、回答なし別に報告されていますが、P25、26、27ではなされていません。他の調査結果や報道等で、男女平等に関する意識や、家庭生活の担い方について、男性と女性では意識に違いがあるとされています。この3項目についても、他の項目同様に、男女別の報告としてください。	B	ご意見のとおり修正します。
9		P28、29、31、33等で、アンケート調査で性別を回答しなかった方の回答が、全体、男性、女性と同等に表示されています。P35のアンケートのように性別を答えない人の回答が特徴的な場合を別として、少数者の意見として特記する必要があるかどうか疑問です。「性別無回答n=人数」と付記する方法もあると思えます。よろしくご検討ください。	B	ご意見のとおり修正します。

No	該当項目等	ご意見等	区分	市の考え方
10	第2章 男女共同参画を取り巻く状況（アンケート調査結果）	P26 家事を主に誰がやっているのかのアンケート回答に「サービス利用」が多いのは、対象者が偏っているからではないでしょうか？	C	アンケートの調査対象者は、市内在住の18歳以上の方を無作為抽出によって選び、対象者に偏りが生じないよう配慮しております。P26の設問結果では、「サービス利用」に関する数値が各項目で1.0%未満となっており、他の選択肢に比べて低い結果となっています。なお、凡例が他の選択肢と混同される可能性があるため、凡例の大きさを変更するなどして、見やすさを考慮して修正します。
11	第2章 男女共同参画を取り巻く状況（第4次計画評価指標の進捗状況）	P46 女性の教育や健康に対する意識は高いのになぜ乳がん子宮がん検診率が低いのか原因をもっと探すべきでは？	C	乳がん・子宮がん検診率が低い状況については、女性の健康支援における重要な課題と認識しております。現在公表している受診率は、市が実施する住民検診の受診状況を基に算出しており、職域で実施される検診の受診状況を反映できていない算定方法となっております。国においては、職域検診の受診状況も踏まえた把握に向けた方向性が示されていることから、本市としても、より実態に即した受診状況を把握できるよう集計方法等の検討を進めております。あわせて、受診率向上に向けて調査・分析を行い、効果的な受診勧奨の方法を検討してまいります。
12		P47〔固定的な性別役割分担意識の解消〕の内容で、「女性に対して「家庭を優先すべき」という固定的な役割への期待が残っている」とありますが、誰が女性に対して固定的な役割を期待しているのでしょうか。P25で明らかなように、共働き家庭が増えても、家事負担は女性に重く、家庭も仕事も担っているのが現状です。必要なのは「意識改革」ではなく、現実の改革と考えます。	C	本計画では、社会全体に根強く残る性別役割分担意識を課題として認識しており、その課題解消に向けた施策を検討してまいります。いただいたご意見は、今後の施策検討や計画策定の参考とさせていただきます。
13		P47〔あらゆる世代における男女共同参画の学習と啓発〕の内容で、「子どもたちへの男女平等の人間関係づくりのためには、～」がわかりづらいと思います。「子どもたちが男女平等の人間関係を築くためには、～」など、主語が明確になった方がわかりやすいと思います。また、1文が長く、「～声があり」が連続しているのも読みにくいです。1つ目の「～声があります。」で切った方が読みやすいのではないのでしょうか。	B	ご意見のとおり修正します。
14	第2章 男女共同参画を取り巻く状況（市の男女共同参画を取り巻く課題）	P47〔政策・方針決定過程における女性参画の拡充〕の内容で、「審議会などの委員構成では女性の比率が目標に達しておらず、形式的な参加にとどまり実質的な関与が進んでいない」とあります。審議会では約3分の1が女性委員ですが、男性委員に比べて出席率が低い、発言が著しく少ない等、「形式的な参加」の事実があるのでしょうか。このような表現をする根拠を示してください。根拠が示せない場合には、記載を変更してください。真摯に取り組んでいる女性委員に失礼な表現だと思えます。また、審議会において、委員長の男女比は偏っていませんか？極端に女性が少ない場合は、その点を問題視してください	B	発言量や出席率に関する具体的な統計データは十分に揃っていません。「形式的な参加にとどまり実質的な関与が進んでいない」という表現については、根拠が明確でないため、ご意見をふまえて修正してまいります。また、審議会の委員長については、各審議会の運営ルールに基づき選定されていますが、現状では女性委員長が少ない審議会も存在しており、この点については公平性の観点から課題として認識しております。引き続き、女性の比率を目標値である40%～60%へ引き上げることを目指し、女性の意見が反映しやすい環境づくりを推進してまいります。
15		P48〔子育て・介護と仕事の両立を支える支援の充実〕の内容で、家事・育児・介護が女性に負担を強いていると説明されていますが、これらをひとくりに考えること自体が間違っていないのでしょうか？家事をするのには男女差は無いのは自明です。育児も、出産と母乳による授乳だけは女性しかできませんが、それ以外は男女差は無いと思います。介護にももちろん男女差はないですが、女性の高齢者が多い、という事実からは、同性に世話してほしい場所には女性が必要かとは思いますが、そのほかは男女差はないと。	C	家事・育児・介護の負担については、アンケート調査結果に基づき記載しております。いただいたご意見は、今後の施策検討や計画策定の参考とさせていただきます。

No	該当項目等	ご意見等	区分	市の考え方
16	第2章 男女共同参画を取り巻く状況（市の男女共同参画を取り巻く課題）	P48〔子育て・介護と仕事の両立を支える支援の充実〕の内容で、「～回答割合も高い結果であります。」に違和感があるので、上の○の内容のように「高い結果が出ています。」に合わせた方が読みやすいです。また、「～高い状況であります。」も「～高い状況にあります。」の方がスムーズな気がします。	B	ご意見のとおり修正します。
17		P48〔DV・ハラスメント・性暴力の根絶に向けた予防と支援体制の強化〕の内容で、2行目「おりません。」は「いません」の方がリズムがスムーズな気がします。他の文章は「～います。」で統一されているので、否定の場合でも合わせた方がいいのではないのでしょうか。	B	ご意見のとおり修正します。
18	第3章 計画の目指す方向	P50 安心して妊娠・出産できるためには、当事者だけでなく、周囲の人達へも税制面で配慮するなどのサポートが必要ではないでしょうか。	C	妊娠・出産に関する支援については、当事者だけでなく、周囲の方々への税制面を含む幅広いサポートの重要性も認識しております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
19		成果指標の現状値、目標値 西暦の表示がない。	B	ご意見のとおり修正します。
20		P55 成果指標①に「固定的性別役割分担意識に同意しない人の割合（「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」の質問で、「そう思わない（どちらかといえばそう思わないを含む）と答えた割合）が挙げられています。しかし、既に80.4%の人が同意しておらず、約75%の家庭が共働き、20歳から60歳未満で7割～8割の女性が働いている現状から、成果指標①の必要性はすでに終了しているのではないのでしょうか。ただし、この項目のアンケート調査は継続して必要と考えます。	C	成果指標①については、現状で多くの方が固定的性別役割分担意識に同意していないことは重要な成果と認識しております。一方で、社会全体の意識や行動の変化を継続的に把握するため、今後もアンケート調査を継続し、必要に応じて指標の見直しを行ってまいります。
21		P55 No.1 内容の「啓発誌」とP68 No.43事業内容の「啓発紙」は別物でしょうか。	C	それぞれ別の発行物となります。
22	第4章 計画の内容	P58 地域活動における男女共同参画の推進として、成果指標に「自治会長に占める女性自治会長の割合」を加えてください。現状の2.4%は余りに低すぎます。せめて10%を目標にしてください。	C	持続可能な地域活動のためには、男女共同参画の推進が、柔軟な自治会活動に必要なものであると認識しております。しかしながら、自治会は任意団体であり、その自主性を尊重するため、市が直接的に女性自治会長を指名したり強制することはできないと考えておりますことから、取り組む施策「No.12 地域における女性リーダーの育成」において育成を行うとともに、自治会に対し、男女共同参画の出前講座を周知・啓発するなど、女性自治会長の土壌が育まれるよう、自治会連合会を通し働きかけてまいります。
23		P65 No.34 事業内容「子の送迎にかかる～」は、子どもに統一した方がいいのではないのでしょうか。	B	ご意見のとおり修正します。
24		P68 No.48 事業内容「こどもの成長の～」は、子どもに統一した方がいいのではないのでしょうか。	B	「おやまこどもプラン」との整合性を踏まえ、事業名を「子どもの貧困対策の推進」から「こどもの貧困対策の推進」に修正します。
25		P69 No.51 事業内容 西暦の表示がない。	B	ご意見のとおり修正します。
26	第5章 計画の推進	5つ目● 西暦の表示がない。	B	ご意見のとおり修正します。

No	該当項目等	ご意見等	区分	市の考え方
27	全体	P11「アグリビジネスモデル」、P71「HUG研修」を用語解説に追加してほしい。	B	ご意見のとおり追加します。
28		「取り組み」と「取組」の使い分けを統一してほしい。	B	ご意見のとおり修正します。
29		鍵括弧の間に読点はいらなと思います。	B	ご意見のとおり修正します。
30		アンケート調査報告等に空白スペースが多いので、経費面からも、ページ数を削減する配慮も必要と思われます。	B	ご意見を参考に、グラフやレイアウトのサイズ調整などを含めて修正します。
31		20代、30代の女性割合が減少しています。この原因として国や県に比べて女性の就業率が低く、正採用比率も低い等、女性にとって魅力的な職場が少ないのではないのでしょうか。また、P25のアンケート報告で明らかのように、小山市では女性の家事負担が重く、男性が担う割合が少ないです。女性にとって家庭と仕事の両立が困難なことが、20代、30代女性が減少している一つの原因と考えます。企業に女性が働きやすい配慮を求めるとともに、市が、積極的にワーク・ライフ・バランスに優れた企業を支援することも必要だと思います。単年度の表彰にとどまらず、これまでのワーク・ライフ・バランス推進事業者名を広報する、ワーク・ライフ・バランス推進事業者に限定した就職説明会を開催する等が考えられます。小山市の施策としてご検討ください。また、男性の家事負担割合が低いことに対し、家事負担の必要性の認識向上と、家事能力向上のための施策が必要と考えます。具体的には、妊娠時の両親学級、父親学級の開催や、参加男性数を成果指標とすることも必要と考えます。	C	20代・30代女性の割合減少や女性の就業環境、家事負担のご意見については重要な課題と認識しております。ご提案いただいたワーク・ライフ・バランス推進事業者の広報や就職説明会の開催、家事能力向上のための施策等についても、今後の施策検討や計画策定の参考とさせていただきます。
32	女性自治会長が少ない原因として、女性が家事・育児と仕事の両方を担い、負担の重い自治会長を務められないという現状があると思います。こうした点を是正して、地域社会で女性の声が尊重される小山市を目指していただきたいです。	C	男女共同参画の推進が、柔軟な自治会活動に必要なものであると認識しております。いただいたご意見は、今後の施策検討や計画策定の参考とさせていただきます。	
33	安心して産む、ということについて、「無痛分娩」について一言も見受けられません。政党として、去年末、公明党が提言しているだけなのが残念ですが、政治家はほとんど男性なのだから考えが及ばない、というのなら、ぜひ、市レベルから突き上げていただきたいです。出産したことのない人にはその痛みがわからない、と言われたら、男性や未出産の女性は何も言えないかもしれませんが、痛みは個人差が大きいことも事実です。今は情報があふれかえっていて、間違った情報も多い中、正しい情報を伝えるという意味でも、出産＝激痛、とだけ広めるとますます産む人は怯んでしまうでしょう。そのためにも教育は大切だと思います。出産の痛みを放置、容認することこそ、女性に対する最大の暴力だと、私は思います。	C	出産に伴う痛みの軽減や無痛分娩などの課題については、男女共同参画の視点から、女性特有の健康と安全に関わる重要なテーマであると認識しております。今後の施策検討や計画策定の参考とさせていただきます。	